

1 本校の教育目標

人権尊重の精神に基づき、新しい時代を担う知・徳・体の調和の取れた生徒の育成を目指して、次の教育目標を定める。

- ◎自ら考え学習する生徒
- 思いやりのある礼儀正しい生徒
- 正義を愛し、心豊かな生徒
- 体を鍛え、くじけない生徒
- 進んで社会に奉仕する生徒

教育目標の重点を、「自ら考え学習する生徒」の育成をとして位置付け、教育活動を展開した。生徒が主体的に学びに向かい、思考力・判断力・表現力を高めることを目指し、各教科の授業や学校行事、日常の教育活動の中で、生徒の主体性を生かした取組を進めてきた。授業においては、生徒自身が課題や学習の進め方を考えたり、テーマを設定したりする場面を意図的に設けるとともに、ペア学習や話し合い、発表活動を通して、自分の考えを表現する機会を充実させた。また、自己評価や相互評価を取り入れ、生徒が自らの学びを振り返り、他者の意見を受け止めながら成長できるよう指導を行った。学力面においては、全国学力・学習状況調査や八王子市学力調査等の結果から、一定の成果が確認できている。一方で、アンケート結果等からは、学習に対して受け身になりがちな生徒が依然として見られることも明らかとなった。今後も、主体的・対話的で深い学びの視点に立ち、授業改善を継続し、生徒一人一人が主体的な学習者として成長できるよう指導していく必要がある。また、「思いやりのある礼儀正しい生徒」の育成については、朝のあいさつ運動や、日常の授業、学校行事、校外での活動等、あらゆる教育活動の場面を通して、礼儀やマナーについての継続的な指導を行い、生徒が学校生活の中で自然に身に付けられるよう努めた。あいさつ運動については、グループ内の小学校3校と連携し、地域全体での取組として継続して実施した。その結果、全国学力・学習状況調査の質問紙調査においても、「人が困っているときは進んで助ける」と回答する生徒が高い割合を示している。一方で、人との関わりに不安や苦手意識をもつ生徒も一定数いることから、今後も個々の状況に応じた支援や、安心して人と関わられる環境づくりを進めていく必要がある。

2 教育理念（目指す学校）

自立 貢献 そして挑戦

本校の教育理念である「自立 貢献 そして挑戦」については、学校全体に着実に浸透してきている。保護者会や学校行事等の機会を通して繰り返し発信するとともに、すべての教育活動をこの理念と結び付けて実践してきた。9年間で育てたい児童・生徒の姿を「自分で考え判断し行動できる生徒、社会に貢献できる生徒、夢をもって挑戦できる生徒」と明確に示し、教育理念との関連を意識した指導を行っている。保護者アンケ

ートにおいても、教育理念の認知度は高い水準を維持している。

また、本年度は地域との連携をさらに推進し、地域連携授業プラスワンの実施や、地域活動・ボランティア活動への参加機会を充実させた。これらの取組を通して、生徒が社会の一員としての自覚をもち、地域に貢献しようとする意識を高めることができたと思う。

あわせて、PTA組織の見直しを進め、より多くの保護者が学校行事等に参加しやすい新たな運用体制づくりに着手した。現在は改革の途中段階ではあるが、家庭や地域と学校が一体となって生徒の成長を支え、共に育てていく姿勢を大切にしている。今後も、生徒が自立し、社会で貢献できる人となるよう、教育活動を継続していく。

3 目指す教師像

明るさ・優しさ・公平さを基盤とした学び続ける教師

明るさとは、子供の前では笑顔でいる教師。優しさとは、できない子供をできるようにする教師。公平さとは、どの生徒からも自分は先生に大切にされていると思われる教師である。本校では、これら三つを教師としての基盤（土台）と捉え、その上に「学び続ける教師」としての専門性や実践力が積み重なっていくというイメージを大切にしている。

教師集団こそが最大の教育資源であり、個々の教員が学び続け、その成果を互いに共有し合うことで、組織としての力は高まり、生徒への教育的効果も一層高まる。そのため、学校経営においては、教職員が日々の実践を振り返り、改善し続ける姿勢を持てるような職場風土づくりを重視してきた。

本年度は、教室の心理的安全性の確保を重点目標の一つに位置付け、教職員が安心して学び合い、挑戦し続けられる組織づくりも同時に進めてきた。講師を招いての職員研修としての実施は行っていないが、管理職からの機会を捉えた説明や働きかけを通して、その意義や具体的な在り方について理解の促進を図ってきた。

こうした取組やこれまでの成果として、全国学力・学習状況調査の質問紙調査において、「困りごとや不安があるときに、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」という問いに対し、本校では86%の生徒が肯定的な回答をしている。これは、全国74%、東京都73%を10%以上、上回る結果であり、生徒が教職員を身近で信頼できる存在として捉えていることの表れであると考えられる。

教職員間においては、日常的な対話や情報共有を通して、課題や悩みを一人で抱え込まず、組織として考え、対応しようとする姿勢が広がりつつある。指導や対応をめぐる意見が分かれ、対立する場面も見られるが、それぞれの立場や考えを尊重しながら、よりよい指導や支援の在り方を模索していこうとする意識は共有されている。今後も、互いの実践に学び合いながら、指導力・対応力の向上につなげていきたい。

今後も、「明るさ・優しさ・公平さ」を土台としながら、教職員一人一人が自らの実践を省察し、学び続ける教師集団の形成を目指したい。その姿そのものが、生徒にとっての学びのモデルとなり、安心して挑戦できる学校づくりにつながるものと考えている。

4 中期経営目標 今年度の目標と具体的な方策

○学力向上（自ら考え学習する生徒の育成）

・思考力・判断力・表現力を育む授業の実践

- ・つまずきのある生徒の支援
- ・学習環境の充実

本年度は、思考力・判断力・表現力を育む授業の実践を重点に、個別最適な学びと協働的な学びの両立を図った。学習用端末を活用した意見共有や共同編集、振り返り活動を通して、生徒の理解の深化を促した。その結果、生徒による授業アンケートでは、「授業がわかりやすい」「学んだことを普段の生活で活用できている」といった項目において、肯定的な回答が高い割合を示し、学校全体として授業改善の成果が確認できた。家庭学習に関するアンケートでは、家庭学習ノート廃止後も、生徒の家庭学習時間は前年度と同程度を維持しており、自主的に学習に取り組む態度が定着していることがうかがえる。全国や東京都の結果と比較しても、家庭学習に一定の時間を確保している生徒の割合は高い傾向にあり、日常的な学習習慣が安定している実態が見られる。

また、朝の読書活動では、ホームルーム開始前にほぼ全員の生徒が着席し、落ち着いた雰囲気の中で読書に取り組んでおり、集団として学習に向かう姿勢が定着している。

学習につまずきのある生徒への支援として、放課後学習教室を学習ボランティアの協力を得て継続的に実施したほか、放課後の個別指導や長期休業中の補習等を行った。これらの取組により、基礎・基本の定着が図られ、学習内容への理解や学習意欲の向上につながっていることがアンケートや日常の学習状況から確認できた。一方、学びを自ら発展させ、主体的に課題を設定して取り組む力については、アンケート結果からも課題が見られる。このことから、今後もデータを基にした授業改善と、個に応じた学習支援の充実を図っていく必要がある。学習の成果と課題を客観的に捉えながら、学力向上と自ら考え学習する生徒の育成に向けた取組を継続していきたい。

○健全育成（他者を尊重し、自律的に行動できる生徒の育成）

・プロアクティブな指導を通じて、未然に不登校を防ぎ、生徒一人ひとりの学びを支える

プロアクティブな指導を通じて、不登校の未然防止と学びの継続を支える取組を組織的に進めた。日常的な観察やアンケート、教育相談を通して生徒の変化を早期に把握し、関係職員が連携して対応する体制を整えている。また、不登校生徒の居場所づくりの一環として、12月より週1回、不登校対応巡回教員による別室での学習指導を開始した。教室への登校が難しい生徒に対しても、学校とのつながりを保ちながら学習に取り組める環境を整えたことで、定期的に登校する生徒が見られるようになった。開始当初は個別対応が中心であったが、現在では利用する生徒が徐々に増えつつあり、生徒にとって安心して過ごせる場として機能している。

これらの取組により、長期欠席生徒数は前年度より減少するなど、一定の成果が見られた。今後は、地域支援員等の活用も視野に入れながら、学習支援と居場所づくりをさらに充実させ、生徒一人ひとりの状況に応じた支援を継続していきたい。

○安全・安心（安全・安心な教育環境の整備）

・心理的安全性のある教室作り

- ・学級経営の工夫と充実
- ・環境美化・整備
- ・外部組織との連携
- ・良好な関係性作り

心理的安全性のある教室づくりを重視し、学級経営の充実と良好な人間関係づくりに継続して取り組んできた。教員が生徒一人ひとりのよさを認め、安心して意見や気持ちを表現できる雰囲気大切にすることで、落ち着いた学習環境の形成につながっている。全国学力・学習状況調査の生徒質問紙においては、「困りごとや不安があるときに、先生や学校の大人にいつでも相談できる」との項目をはじめ、自己肯定感や将来への展望に関わる複数の項目で、全国平均や東京都平均を上回る肯定的な結果が得られた。これらの結果から、生徒が自分自身を前向きに捉え、学校を安心して過ごせる場として認識している様子がうかがえる。

いじめの未然防止・早期発見については、定期的な調査と組織的な情報共有を行い、深刻な事態に至る前の対応を徹底してきた。また、生命尊重やSOSの出し方に関する授業を、専門の講師を招いて全学年で実施した。これらの取組を通して、生徒が自分を理解し認めるとともに、他者を尊重する意識を高め、心理的安全性のある教室づくりにつなげた。今後も、生徒の安心感を基盤とし、安全で信頼される学校づくりを継続していきたい。

○研究（GIGAスクール構想の実現）

・デジタル・シチズンシップ教育の推進

GIGAスクール構想の趣旨に沿って、ICT機器を効果的に活用した授業実践を進めてきた。デジタル・シチズンシップ教育については、連携小学校と課題や指導内容を共有し、9年間を見通した体系的な指導の充実に取り組んでいる。今年度も、中学校の教員が各小学校に赴き出前授業を実施し、担当者チームとの情報交換会を通じて、指導の工夫や課題解決の方法を共有した。今後も、SNSやICT機器の適切な活用に関する課題を共有し、小中一貫教育としての取り組みを継続していく。

授業においては、ほぼすべての教科でICT機器を積極的に活用しており、授業内容が視覚的に理解しやすくなっている。スライドや動画を用いることで、抽象的な概念の理解が深まり、生徒の興味・関心を引き出すことができた。また、体育祭や合唱コンクールなどの学校行事では、生徒がICT機器の作画ツールを活用してポスターを作成するなど、身近な場面での活用も進んでいる。

授業や学校行事でのICT活用を通じて、生徒の表現の幅が広がり、学習への意欲向上や主体的な学びにつながっていることが確認できる。今後は、単なるICT活用にとどまらず、思考や対話を深める手段としての活用方法をさらに研究し、授業や学校生活全体でコミュニケーション能力や協働的学びの向上を目指した取組を進めていきたい。

5 教育公務員として責任と自覚ある行動

・サービスの厳守、働き方改革の推進、自己研鑽と健康管理

サービスの厳守、働き方改革の推進、自己研鑽と健康管理を柱に、教育公務員としての責任と自覚ある行動の徹底に取り組んだ。

サービスの厳守については、わいせつ行為や不適切な言動の防止を重点事項とし、指導を行った。年3回のサービス研修に加え、朝の職員打ち合わせや職員会議等の場を活用し、ほぼ毎週のペースで継続的な注意喚起を行うことで、職員全体のサービス事故防止に対する意識の向上を図った。また、教育委員会からのサービス関連情報については、メール等により速やかに共有するとともに、私費会計の書類管理についても、適切な処理と決算を行った。交通安全への意識向上の取り組みでは、学校目標として交通事故ゼロ、違反ゼロを掲げ、生徒・職員双方の安全確保に努めた。

働き方改革の推進においては、限られた時間を効率的に活用するため、業務の優先順位を明確にし、日常業務の進行管理やフォローを丁寧に行った。勤務状況を把握し、必要に応じて早期にフィードバックや個別面談を実施することで、職員が安心して意見を共有し、課題解決に向けて主体的に取り組める環境づくりに努めた。

自己研鑽と健康管理については、教職員が進んで学び、専門性を高めることを奨励するとともに、心身の健康を最優先に整え、教育活動に専念できる職場環境の維持に取り組んだ。

今後も、教職員一人ひとりが専門性を磨きながら、安心して力を発揮できる学校運営を継続し、保護者や地域から信頼される学校づくりに取り組んでいく。